

▶漢詩の
もしろさを
伝える講師
の石川忠久
会長



◀最優秀賞石碑とともに
記念撮影する山田さん(写
真左)と石川会長(写真右)

『酒をうたう詩』を通じて漢詩文の魅力や味わい方を伝授

第16回全国ふるさと漢詩コンテスト

11月30日、公益財団法人孔子の里主催の全国ふるさと漢詩コンテストが東原庫舎で開催されました。

また、漢詩コンテスト表彰に先立ち、全日本漢詩連盟の石川忠久会長を講師に、『酒をうたう詩』と題して公開講座が開催され、漢詩の成り立ちや、読み方の説明に始まり、5世紀に活躍した陶淵明や杜甫、李白など詩人のお酒にちなんだ漢詩を題材に、漢詩が作られた時代背景や言葉に隠された情景など漢詩文の魅力や味わい方を伝えました。

漢詩コンテスト表彰式では、最優秀賞に東京都八王子市の山田治さんの『瓶裏梅花』が選ばれました。山田さんは「漢詩を始めて15年ですが、忍耐強く漢詩を作り続けたことが受賞につながったと思います。大変嬉しく思います」と受賞の喜びを語りました。優秀賞の受賞者は次のとおりです。

優秀賞＝河野光世（東京都）
横山英子（東京都）（敬称略）

大規模災害時の飲料水確保に協力いただきます

災害時対応自動販売機設置協定

多久市と佐賀富士ベンディング株式会社（永田賢代表取締役）が11月29日、災害時対応自動販売機設置協定を締結しました。

この自動販売機は、大規模災害時に無料で飲料水を提供できるようになり、停電時にもバッテリーや手回し発電で対応します。

設置は、旧北部小学校体育館と市役所地下の市民食堂に1台ずつ。横尾市長は「安心安全の基盤として、平時からこのような取り組みをしていただきありがとうございます」と御礼を述べました。永田代表取締役は「多久に本店があり、ご縁があります。地域の役に立てるように今後も努力していきたいです」と地域貢献事業に意欲的でした。

自治体と、この協定を結ぶのは多久市で3件目。手回し発電を内蔵している自動販売機は業界初で、携帯電話を充電できる設備も備えており、災害時の安否確認等への活用が期待できます。



▲手回し発電の説明を受ける横尾市長。
左は永田代表取締役。



▲協定書を手に握手する横尾市長と永田代表取締役

KBC九州朝日放送「アサデス。」で幡船の里が紹介されました

12/3

九州で唯一の朝の生番組KBC九州朝日放送「アサデス。」で、西多久町の幡船の里が生放送で紹介されました。

番組ではレポーターの石井裕二さんと平田たかこさんが、多久産のみかんや、すっぽんの卵、女山大根アイス『乙女の心』を試食し、その美味しさを紹介。また、女山大根で調理された“ゼリー”や“ふろふき大根”に舌鼓を打ち、幡船の里をPRしてくれました。

放送終了後は早速女山大根の注文が入っていました。



永年にわたる福祉への貢献に対し表彰！

11/23

第1回多久市社会福祉大会（多久市社会福祉協議会主催）が中央公民館で開かれ、福祉事業に永年にわたり貢献した19人に対し表彰を行いました。記念講演として「心豊かに生きる」の題目で“かえる寺”の愛称で親しまれている如意輪寺の住職原口元秀さんが、さまざまな教訓や意味を持った言葉を用いて講演され、ユーモアあふれる話で、会場に集まったみなさんは笑顔で聞き入っていました。

